＼自然いっぱい！イベントいっぱい！／

自然保護センターへ 来てみられぇ～

1月～3月のセンターで見られる自然を見つけに行こう!

メジロ

ホトケノザ

イタチ

ヤマガラ

ヤブツバキ

ヒオドシチョウ

キジムシロ

ルリビタキ(オス)

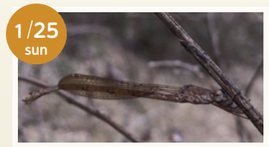
ルリビタキ(メス)

冬の観察会案内

時間　10:00～12:00(9:50集合)
集合場所　センター棟他
参加方法　要予約 / どなたでも参加OK

季節のさまざまな生きものを観察する、「自然観察会」を開催!

1/25 sun

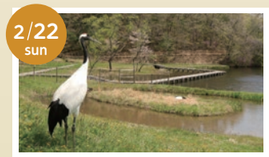


越冬昆虫大発見
虫たちはどのように冬を過ごしているんだろう?石や樹木などの下を探しまくろう!

2/15 sun

冬鳥観察会
ヨシガモやジョウビタキ、ルリビタキなど定番のほか、アトリやキクイタダキも見られたらいいな。※雨天中止

2/22 sun



タンチョウ餌やり体験&記念撮影
特別天然記念物のタンチョウについて学んだ後、餌やり体験をします。タンチョウと一緒に写真も撮れるよ。

3/1 sun

フィールドサインを探せ
痕跡でわかる動物の名前。普段見ることの出来ない動物たちのサインを見逃すな!

イベントレポート　タンチョウの命名式を行いました。

2025年11月1日に、「第23回佐伯タンチョウフェスタ」が開催されました。特設ステージでは、今年生まれたタンチョウのヒナの命名式が行われ、たくさんの方々から寄せられた応募の中で選ばれた「ツムギ」という名前が発表されました。
命名者には感謝の気持ちを込めて記念品が贈られ、参加者全員がタンチョウの成長を一緒に喜び、自然とのふれあいをより大切に感じることができる素敵な一日となりました。

岡山県自然保護センター
☎0869-88-1190　〒709-0524 和気郡和気町田賀730
休所日／毎週火曜日(祝日除く)、祝日の翌日(土・日・祝日除く)、年末年始(12/28-1/4)
開所時間／9:00～16:30　入場料／無料

その他イベント情報はWEBをチェック!
岡山県自然保護センター
https://okayama-shizenhogo-c.jp/

岡山県環境保全事業団は、岡山県より、令和7年4月1日から令和12年3月31日の期間、岡山県自然保護センターの指定管理者に指定されました。

気になった内容をシェアしよう！　#岡山県自然保護センター　#冬の自然　#冬の生き物　#タンチョウ

環境 読者アンケート

あなたの声をお聞かせください！
情報誌「環境」の誌面内容のアンケートを実施しています。「環境」は読者の皆様にとって、より学びとなり楽しめる誌面を目指しています。ぜひあなたのご意見をお聞かせください。
【ご回答の流れ】2次元コードを読み取る→フォームで回答

発行元　公益財団法人 岡山県環境保全事業団
問い合せ先　〒701-0212 岡山市南区内尾665-1
☎ 086-298-1239　FAX. 086-298-2496
stopco2@kankyo.or.jp

VEGETABLE OIL INK　この印刷には環境にやさしい植物油インキを使用しています。
FSC www.fsc.org　ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C000000

環境

2025 Winter ● Vol.402
www.kankyo.or.jp
公益財団法人 岡山県環境保全事業団

特集

廃棄から循環へ。

未来につなぐ、廃棄物処理のあゆみとこれから

 # エコアクション21
二酸化炭素排出量43％削減を実現
全社員で取り組むEA21
エコシステム山陽株式会社

 # NEXT STEP
ボトルtoボトルで進める脱炭素
サーキュラーエコノミーを津山から全国へ
株式会社サーキュラーペット

 # TOPICS
・「第31回地域と下水道のふれあいデー」に出展
・「第12回おかやま環境教育ミーティング」開催
岡山県環境保全事業団

 # 自然いっぱい！イベントいっぱい！
自然保護センターへ来てみられぇ～

気になった内容をシェアしよう！　#環境　#わたしのエコアクション　#再生可能エネルギー　#カーボンニュートラル

廃棄から循環へ。

未来につなぐ、廃棄物処理のあゆみとこれから

いま、私たちの暮らしに重要なキーワードとなっている循環型社会。
限りある資源を持続可能な形で循環させ利用し、環境への負担を少なくする社会の仕組みのことです。
かつては“廃棄物＝埋め立てるもの”という時代もありましたが、岡山県環境保全事業団では、時代とともに「エネルギーに変える」、「資源として再利用する」といった新たな取り組みを進めてきました。捨てる社会から活かす社会へと移り変わっていく、廃棄物処理の今までのあゆみとこれからについてご紹介します。

適正で安全な処分

水島埋立処分場

1979年 埋立処分のスタート

岡山県内の産業の発展と生活環境の保全のため、岡山県環境保全事業団がこの埋立処分場を建設し、1979年から管理運営を行っています。埋め立てが終了した第一処分場は、修景緑地や廃棄物の処理・リサイクル施設の用地として有効利用されており、2009年からは第二処分場の埋め立てを行っています。

Eco Point 護岸で安全や環境を守る

処分場は、廃棄物に触れた水が処分場の外に漏れ出さない護岸で囲まれており、埋立工法自体にも安全面で様々な工夫をしています。

Eco Point 高度な排水処理で水をきれいに

処分場内の廃棄物に触れた水は、いくつもの高度な処理を行い、倉敷市と締結している環境保全協定などに基づく厳しい排水基準をクリアするきれいな水にしてから、外海へ放流しています。

1979

環境負荷を減らす処理とエネルギー活用

水島クリーンセンター

1999年 廃棄物の減量と環境に優しい焼却処理

1999年から「水島クリーンセンター」が稼働スタート。処分場の容量を圧迫する廃プラスチック類を燃料として利用かつ下水汚泥を燃やし、減量化することで、処分場の寿命を延ばし環境への負荷を減らしています。
また、下水汚泥を燃やして無害化することで、処分場の排水処理の負荷も減らしています。

Eco Point 排出ガスもクリーンに処理

焼却処理で発生する排出ガスは、高度な排ガス処理設備で浄化してから大気に放出しています。

Eco Point 熱エネルギーを電気に活用!

焼却時に発生する熱エネルギーを電気に変え有効に活用。廃棄物を減らすだけでなく熱を利用して発電し、水島事業所内で利用しています。

発電能力 1,200 キロワット!

1999

廃棄物を資源として再生

みずしま資源再生センター

2023年 灰を資源にリサイクル

2023年に稼働をはじめた「みずしま資源再生センター」では、これまで埋立処分又は県外に運ばれリサイクルされていた焼却灰を1,000℃以上の高温で「焼成」することで無害化し、土木資材などに再生しています。

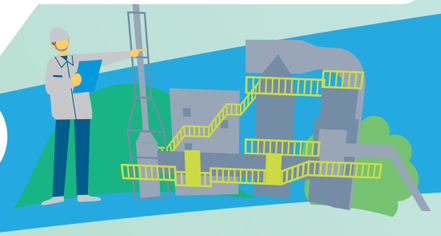
Eco Point 焼却灰を資源に再生

焼却灰を焼成し生成された焼成品「ハレスナ」は、土木・建築・造園資材などに再利用され、山土や海砂などの天然資源の消費を抑制することで、自然環境の保全に寄与します。

焼却灰焼成　焼成品（ハレスナ）　土木工事に活用

Eco Point 環境負荷を減らし処分場を長持ち

焼却灰が県外に運ばれることによる長距離運搬に伴う環境負荷の軽減や処分場の延命化につながっています。



2023

再生エネルギーへの転換や活用

2024年 循環型社会の形成に向けての取り組み

これまでの取り組みとともに、2024年から再生可能エネルギーの活用にも取り組んでおり、循環型社会の実現に向けた施設運営を進めています。

Eco Point 燃料の一部にBDFを利用

みずしま資源再生センター（BDFタンク）

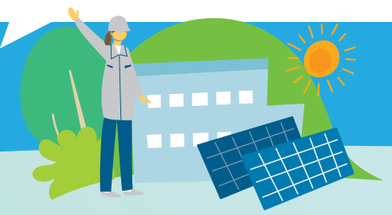
「みずしま資源再生センター」では、廃棄物の処理に使う灯油の一部を、再生可能エネルギーであるBDF（バイオディーゼル燃料）で代用しています。灯油の使用量を減らすことで、BDF1キロリットルあたり約2.5トンもの二酸化炭素排出量を削減できます。

70キロリットルを利用し、およそ175トンの二酸化炭素排出量削減!（2024年度）

Eco Point 太陽光発電システムの導入

水島事業所（PPAモデルによる太陽光パネル）

PPAモデルを活用し、発電事業者が埋立跡地に設置したパネル容量1.2メガワットの太陽光発電設備から生み出される年間110万キロワット以上の電力を使用。これにより事業所の電力の一部を賄うことで、約600トンの二酸化炭素排出量を削減しています。



2024

今後の動きについて

私たち岡山県環境保全事業団は、時代に応じた形で廃棄物処理を行ってきました。
今後も廃棄物処理を通じて、循環型社会の実現に貢献していきます。

気になった内容をシェアしよう！　#廃棄物処理　#再生可能エネルギー　#循環型社会　#ごみから資源へ

企業で取り組む環境経営

エコアクション21

vol.40

二酸化炭素排出量43%削減を実現 全社員で取り組むEA21

お話をお聞きしたのは

エコシステム山陽株式会社

代表取締役社長
吉成（よしなり）　明夫（あきお）さん　（中央）

工場長
村重（むらしげ）　勝士（かつし）さん　（左）

管理課　担当課長
橘（たちばな）　裕之（ひろゆき）さん　（右）

―エコアクション 21（以下 EA21）に取り組んだきっかけを教えてください。

当社は、廃棄物処理やリサイクル事業を通じて環境保全に取り組んでいます。PCB（※）やフロン類といった処理が難しい廃棄物にも対応できる技術を備え、DOWAグループの中核を担っています。2016年にはISO14001からEA21に切り替えました。EA21はガイドラインが明確で実務に即しており、全社的に取り組みやすいと判断しました。さらに運用費用がISOの約5分の1に抑えられる点も大きな理由でした。

※PCB…ポリ塩化ビフェニルの略称。電気機器や塗料に使用され、廃棄時には厳重な処理が義務付けられている有害物質。

―環境負荷の削減実績につながった取り組みや背景を教えてください。

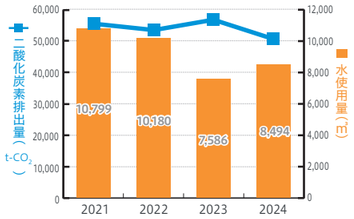
水使用量については、冬季の通水量の気温に応じた調整や、老朽化した配管の修繕などに取り組みました。社員への声かけや教育を徹底した結果、約3割の削減につながりました。二酸化炭素排出量については、焼却事業はどうしても排出が多くなりますが、灯油から再生油への切り替えや排ガスの熱回収、さらに燃料代替となる引火点の低い廃棄物の受け入れにより、2013年度比で43%削減を実現しました。廃棄物についても、燃え殻を金属分離しリサイクルへ回すほか、PCBやリチウムイオン電池などの難処理物を安全に処理し資源化を進めています。

取り組みの推進としては、3カ月ごとの全体会議で進捗を確認しています。全社の年間目標は工場長が策定し、各課ごとに現場の意見を取り入れて柔軟に目標を設定しました。さらに、担当課ごとの目標は日常業務と直結しているため改善がしやすく、取組項目がコスト削減につながる点も活動意欲を後押ししています。加えて、個々のテーマについては、業務報告や改善会議、現場改善会議などでも詳細に報告する機会があるため、より推進しやすい体制になっています。

― EA21 に取り組んで、経営面でのメリットはありましたか？

EA21の取り組みはコスト削減と直結しています。焼却炉の排ガス熱を利用した発電や燃料使用量の削減により経費を抑えることができました。さらに、社員が日常業務の中で数字を意識するようになり、環境とコストの両面で改善の効果が表れています。

▶二酸化炭素排出量および水使用量



「地元の皆さまのご理解があってこそ成り立つ廃棄物処理業であるため、少しでも地域貢献できれば。」との想いから、ミニバス大会の開催や、子ども向けのサッカー教室、地域のお祭りへの協賛などを行っています。

―これからEA21に取り組む企業にメッセージを。

環境活動はCSRの枠を超え、経営にとって大きなメリットを生むものです。また、EA21では中長期的な計画を立てるため、数年単位で自社の事業や活動について考える機会にもなります。多くの企業に挑戦していただきたいと思います。

エコシステム山陽株式会社

所在地　〒708-1523 久米郡美咲町吉ヶ原1125
従業員数　165名　認証・登録日　2016年3月

創業1977年。一般廃棄物及び産業廃棄物、特別管理産業廃棄物などの中間処理を行う環境サービス業。

[エコアクション21] 環境省が策定したガイドラインに基づいて環境経営のためのしくみを構築・運用している事業者を認証し登録する制度です。　エコアクション21

[エコアクション21 地域事務局岡山県環境保全事業団]
〒701-0212 岡山市南区内尾665-1
Tel 086-298-1239　**Fax** 086-298-2496
Mail ea21@kankyo.or.jp　http://www.kankyo.or.jp
Facebook https://www.facebook.com/ecoaction21/

気になった内容をシェアしよう！　#エコシステム山陽　#廃棄物処理　#リサイクル　#エコアクション21

次の世代に続くエコロジーな活動
NEXT STEP

ボトル toボトルで進める脱炭素 サーキュラーエコノミーを津山から全国へ

株式会社サーキュラーペット
販売・調達・経営企画本部長　満澤（みつざわ）　貴弘（たかひろ）さん

分別や洗浄、破砕など全ての各工程において、独自の技術を活かした多様な方法による処理を実施。

岡山県津山市を拠点に、使用済PETボトルから再生PET樹脂を製造・販売する株式会社サーキュラーペット。2020年に設立し、2024年6月に工場の稼働を開始しました。年間約2.5万トン、PETボトル換算で約1.6億本分の再生PET樹脂を生産できる体制を整え、事業を通じて循環型社会の実現や脱炭素化に挑戦しています。今回は、販売・調達・経営企画本部長の満澤貴弘さんにお話を伺いました。

3社の強みを結集した合弁企業

株式会社サーキュラーペットは、同じ価値観を共有する3社の合弁会社として誕生しました。世界各国でPETリサイクル事業を展開し、技術・設備・人材教育のノウハウを持つヴェオリア・ジャパン合同会社。国内におけるPET樹脂の販売網と流通ネットワークを持つ三井物産株式会社。さらに、自社ブランドでの樹脂活用や店舗からのPETボトル回収ルートを有する株式会社セブン&アイ・ホールディングス。この3社がそれぞれの強みを持ち寄り、「使用済PETボトルを新たなボトルへ再生する“ボトルtoボトル”」を軸とした事業を展開しています。岡山県内でこの水平リサイクルが事業化されたのは初めてのことで、地域と連携しながら循環型社会の構築に取り組んでいます。

廃プラスチック輸出入規制の強化などで、日本国内での滞留が予測される使用済PETボトル。

不純物混入ボトルも処理可能な独自技術

同社の強みは、キャップやラベル、飲み残しが付着したままの使用済PETボトルも処理できる技術です。独自に開発した最適な工程により、分別から洗浄、樹脂化までを一貫して行います。満澤さんは**「今までリサイクルが難しかった、飲み残しがあったり、キャップが付いた使用済PETボトルであっても、弊社では原料として使用できます。その点は、自治体の方など多くの方に喜ばれています」**と語ります。

手作業での分別作業も複数回行います。

使用済PETボトルは、西日本地域を中心に全国から回収されます。JR西日本やJR九州、全国の各自治体とも協定を結び、駅や商業施設などで排出されたボトルを回収しています。**「中国自動車道の院庄ICに近く、物流アクセスの良さも強みと考えています」**と満澤さん。

また、PETボトルリサイクル推進協議会によると、石油を原料として新たに製造される樹脂と比較した際に、約45%の二酸化炭素削減効果が報告されています。（出典：PETボトルリサイクル年次報告書）

地域とともに未来を拓く

現在、津山工場では100名以上の社員を雇用しており、津山近隣地域の雇用創出にも寄与しています。**「社会インフラの一端を担う事業者として、安定的かつ長期的に事業を継続することが最も重要な使命です」**と満澤さんは語ります。

「今後は、環境教育の場として工場見学の受け入れや、企業と連携した啓発活動も進めていく予定です」と今後の展望を語られました。

左から右のように再生PET樹脂を製造し、飲料メーカー各社へ供給を行っています。

株式会社サーキュラーペット

〒709-4612
津山市くめ字団地50-77
https://cpet.co.jp/

気になった内容をシェアしよう！　#サーキュラーペット　#ボトルtoボトル　#サーキュラーエコノミー　#使用済PETボトル

紹介! 話題のエコ知識

TOPICS

毎年9月10日は「下水道の日」

「下水道の日」にちなんで毎年9月第2土曜日に、下水道の役割や整備の重要性などの理解を深めるイベントが開催されています。

イベント「第31回地域と下水道のふれあいデー」に出展しました!

2025年9月13日(土)に、児島湖流域下水道浄化センターで開催された「第31回地域と下水道のふれあいデー」に、ブース出展しました。当日は曇りでしたが、家族連れを中心に約500名の方々にお越しいただき、ブースは大いににぎわいました!

イベント当日の様子をご紹介!

地域の皆さまに下水道や下水汚泥の再資源化について知っていただくとともに、資源の再利用をコンセプトに植物の種まきを体験できるなど、楽しみながら学べるコーナーを用意しました。

種まき体験参加者にエコバッグなどのノベルティをお渡し♪

パネルで紹介! 汚れた水が資源に変わるまで

「汚れた水が再資源化されるまで」をテーマにパネル展示を行いました。家庭から出る汚水が下水道浄化センターで浄化されて汚泥が発生し、その汚泥が水島クリーンセンターで焼却され、発生した焼却灰はみずしま資源再生センターで焼成処理され、最終的に砂としてリサイクルされるまでの流れを紹介しました。

初めて知ることがたくさん!

体験者の声
- 「トイレから流れた水がどうなるのか、よく分かりました。」
- 「汚れた水がどうやって資源になるのか、初めて知りました。」

植物の種まき体験

アリッサムの種をまきました

資源の再利用をコンセプトに、もみ殻由来の鉢とヤシ殻由来の培土を使い、来場者の皆さんに種まきを体験していただきました。持ち帰ってお世話をする中で、「汚れた水が新しい資源に変わること」について思いをはせてもらえたらと企画しました。

体験者の声
- 「種をまいた後、花が咲くのが楽しみです!」
- 「もみ殻を再利用したカップがあることを初めて知りました。」

ご来場ありがとうございました!

今回のイベントでは、ただ下水汚泥を処理するだけでなく、資源として再び生まれ変わらせる岡山県環境保全事業団の取り組みについて、来場者の皆さんに分かりやすく知っていただける機会となりました。今後も資源循環への理解を深めていただけるよう、岡山県環境保全事業団は取り組んでいきます。

公益財団法人 岡山県環境保全事業団
〒701-0212 岡山市南区内尾665-1 https://www.kankyo.or.jp/

イベントのお知らせについてはこちら 岡山県環境保全事業団

気になった内容をシェアしよう! #環境イベント #地域と下水道ふれあいデー #再資源化 #種まき体験

「第12回おかやま環境教育ミーティング」開催

つながり広がる 学びと協働の輪!

2025年8月22日に岡山コンベンションセンターにて開催された「第12回おかやま環境教育ミーティング」の様子を一部ご紹介します!

総勢参加者 269名 10〜70代以上 幅広い世代の方が多数参加!

ブース展示 出展団体 31団体

アンケート 満足度 9割以上

おかやま環境教育ミーティングとは

このミーティングは、持続可能な社会を目指し、環境教育に関わる人々がつながり、学び合い、協力し合う場を提供しています。岡山県が主催し、学校、企業、行政、NPOなど多種多様な団体が集まるかんきょうひろば※が運営しています。多世代交流を通じて、多様な主体が協働するきっかけづくりを目的としています。

ブース展示

活動紹介や体験ブースで交流!

活動発表

今年から新しく活動発表も! 気づきを得られる学び合いの場

分科会

5つのテーマに分かれて学びと意見交換!

全体会

グループに分かれて1日の振り返り! 学んだことや想いを共有

クローズアップ! 分科会

テーマ 地球温暖化・気候変動ってなぁに?

地球温暖化や気候変動について学び、日常で自分たちにできることを考えました。断熱や家電選びなど身近な工夫が紹介され、「無理なく行動することが大切」といった声も。意見交換を通じて、今後の行動や実践につながる場となりました。

テーマ 現代アートを通じて、問いを深める学びの探求

現代アートを題材に、多様な価値観に気づくための対話型鑑賞を行いました。参加者は、作品を見て何を感じたかを言語化し、他者と意見を交換。参加者からは「自分では気づけなかった発見があった」「他者の意見で考えを深められた」と好評でした。

参加者の声

- 様々な環境活動の展示を見ることができ有意義でした。
- 高校生など若い世代と交流できたのが嬉しかったです。
- 情報交換を通じて新しい気づきや発見がありました。
- 新しいつながりが生まれ、活動の輪が広がりそうです。

企業から小学生の方まで幅広い世代が集いました!

※かんきょうひろばとは 正式名称は岡山県環境学習協働推進広場。より良い環境に恵まれた持続可能な社会の実現に向け、協働による環境学習を進めるため、行政や環境NPO等が協働する場として岡山県が設置・推進しています。

気になった内容をシェアしよう! #おかやま環境教育ミーティング #かんきょうひろば #つながり #持続可能な社会